

## ならちゅうしん経営研究会 例会報告

### 第 334 回 研究会

**日 時** 令和元年 5 月 23 日(木) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 30 分  
**場 所** 奈良中央信用金庫 3 階 ホール  
**講 師** 一般社団法人 人工知能応用センター 理事長  
ITコンサルタント・中小企業診断士  
いしくら経営事務所  
代表 石倉 一利 氏  
**テーマ** ITセミナー「人工知能(AI)に負けない経営のヒント」  
～データ活用でAI時代を生き抜く～

令和時代最初の例会となります今回の研究会は、奈良県中小企業診断士会より、ITコンサルタント・中小企業診断士で、一般社団法人 人工知能応用センターの理事長を務められる、いしくら経営事務所代表の石倉一利氏を講師にお招きして、ITセミナー「人工知能(AI)に負けない経営のヒント」をテーマに、ご講義を頂きました。

人工知能(AI)時代を見据えた事業経営を行うために、企業として何を行っていくべきか? AIの活用により社会がどのように変わっていくか? 中小企業における人工知能利用のヒントといった内容でお話しを頂きました。

最初にAIとは、どのようなものなのかについて解説を頂きました。AI開発は1960年以前より研究が始まり、「テクノロジーのハイプ・サイクル」によると2017年に期待のピーク期を越え、『幻滅期』へ坂を下りつつあり、今後、概念実証や先行事例の結果が公表され、取り組みの困難さが顕在化するにつれて、慎重な姿勢が企業間に広まるとのことです。しかし、ディープラーニングに代表される近年の技術革新により企業のAI技術活用に対する期待が高まっています。特に音声認識、画像処理、言語処理の分野や機械学習の分野は実用段階に入ってきています。

中小企業には、人手不足、営業力の弱さ、組織力不足など、様々な弱みがありますが、AI導入はこれらの課題の解決策となるものです。そして、今後、AIが進化し、単純な労働、ルーチンワーク等はAIやロボットで無くなり、これまでの仕事の3割のみが残ると言われています。そのような社会の変化に対応していくには、AIが出来ないものを見極め自社の将来のビジネスを描いていくことが肝要であるとお話しでした。最後に石倉先生より中小企業が出来るAIの導入手法として、オープンソースウェアである「H2O」の紹介がありました。

以 上



上田会長ご挨拶



講師 いしくら経営事務所 代表 石倉 一利氏